

陳述書

埼玉県三郷市　名取知衣子

(「放射能から子ども達を守ろう　みさと」　代表)

目 次

はじめに

- 1、市の行う計測について
- 2、保護者による計測でわかったこと
- 3、土壤調査からわかったこと
- 4、学校の対応と保護者の不安
- 5、転校について

さいごに

はじめに

私は、埼玉県三郷市で小学4年生と1歳半の2児を子育てしている主婦です。

三郷市は、福島第一原発からおよそ230km離れておりますが、埼玉県(さいたま市)にある県庁舎4F屋上にて測定)でも3月15日には空間線量 $1.2 \mu\text{Sv/h}$ が計測され、私達も漠然とした不安を感じていました。

しかし、それから徐々に線量は下がり、4月頃にはほぼ平常値に下がった、と言われるようになりました。多くの県民が安心し、元の生活に戻っていました。春休み中に田舎に帰省したお友達も、春休みの終わりには戻ってきて、余震と計画停電の不安は残るもの、例年通りに新学期が始まりました。

その一方、ネットでは4月上旬には、個人のガイガーカウンターなどの計測により、千葉県の東葛地域(柏市、流山市、松戸市)、東京都葛飾区(金町付近)で、線量が周辺に比べて高めであるという情報が流れ始めました。三郷市は、それらの地域に挟まれるように隣接しています。私は、三郷市に関する情報を求めてネットを検索したり、自身のブログに話題を掲載したりするうちに、同じ心配を抱いている市民の方々と交流を始め、「放射能から子ども達を守ろう　みさと」という会を作りました。

私達は、埼玉県の測定値は、必ずしも三郷市の汚染状況を反映してはいないのではないか、そして、必ずしも子ども達の活動環境(地表~1m)を反映していないのではないか、と思い、三郷市内の測定、それも、学校や公園など子ども達の活動場所の放射線量を測ることが必要だ、と思いました。

当初、そのことを市に訴えましたが、「県の測定値が問題ない値なので、市として対応するつもりはない」と言われるだけでした。しかしながら、私達市民が働きかけていくことによって、学校や保育所などの計測が少しずつ行われるようになってきました。

それでも、まだ子どもの安全を守るという視点では、不十分と言わざるを得ません。

1、市の行う計測について

現在、市では、小中学校・保育所・運動公園などを中心に、週1回計測を行っています。

参考に、最新の小学校の計測値の一部を以下に示します。(使用機器はアロカ社製 TCS-161)

基準測定点	8月29日			
	地表状況	5cm	50cm	1m
瑞木小学校	土	0.10	0.09	0.09
彦成小学校	土	0.07	0.06	0.07
新和小学校	土	0.11	0.10	0.10
八木郷小学校	土	0.18	0.16	0.15
高州東小学校	土	0.12	0.11	0.11

単位は $\mu\text{Sv/h}$ 。 三郷市ホームページより¹。(測定の方法なども掲載あり)

この計測は、グラウンドの中央 1 点で行われています。

しかし、本当にこの値だけで、子ども達の安全を判断する材料として十分なのか、私達保護者はたいへん疑問に思っています。

草むらや芝生、側溝付近、雨水の染み込みやすいところ、吹き溜まりなどは、放射性物質がより留まり、線量が高くなっていることは、ネット等でも早くから情報として流れていきました。5月中旬ごろ、私達は自前のガイガーカウンターで娘の通う 小学校の校庭を計測したところ、グラウンドの中央よりも遊具や鉄棒があったり、植え込みがあったりする端の方が、線量が高いことがわかりました(添付の別紙 1 の線量マップを参考下さい)。私達は校庭の端や遊具や砂場の周りを計測し除染する必要性を早くから認識して訴えてきました。他にも個人で学校や公園などを測った人が何人もいます。その誰もが、市の計測値よりも高い値を報告しており、実感としては、市の値よりもおおむね 3 ~ 5 倍は高い印象でした。市の計測はグラウンドの中央 1 点、しかし私達は、子ども達がよく行く場所、よく座る場所、よく触る場所を測っています。私達はその値から、遠足、運動会、草むしりや虫取りと言った屋外活動に対する不安を学校に訴えました。が、学校はあくまで市の計測値だけを参考にするとして、問題ないから特に対応しない、ということでした。市内の多くの学校が、一様に同じ対応でした。私達は 7 月に、市に対し細かい線量計測や除染などを求める要望書を提出しましたが、市の回答は「今の測定で十分であり、今後線量が増加するような事態が起これば再度検討する。」という回答でした。

2、保護者による計測でわかったこと

2 学期が始まるにあたり、私達保護者は、8 月中旬から下旬にかけて、市内 10 校ほどの小学校の敷地内を細かく計測し、線量マップを作りました。

小学校(添付の別紙 2 の線量マップを参考下さい)は、市の計測では $0.11 \mu\text{Sv/h}$ (5 cm) となっています。しかし、保護者が自主的に測定した線量マップでは、地上 1 m で $0.3 \mu\text{Sv/h}$ を超える地点は複数存在し、地表に至っては $1 \mu\text{Sv/h}$ を超える地点も複数あります。他の小学校では(市の定期計測地点に含まれていない) 排水溝の表面で $6 \mu\text{Sv/h}$ を超え

¹ <http://www.city.misato.lg.jp/dd.aspx?itemid=10892#moduleid7193>

るところがありました。

もちろん、私達の計測器は簡易のものであり、測定者も素人であり、測定方法も統一されておらず、多々問題点もあることは十分認識しています。

(さらに先生に見つかると禁止されてしまうため、短時間での手短な測定でした)

しかしながら、市の測定だけでは、このような汚染状況を把握することはできませんでした。

私達保護者は、子ども達がどのような場所によく行くか、よく知っています。

それは、遊具のあるところ、虫がいたり、木の実が落ちていたりする植え込みや草むら、暑い時期は木の茂った日陰などです。

今回の計測で、そのような場所ほど、線量が高いことがわかりました。

子ども達がこのような場所に近づかないよう、先生方は指導すべきだと思います。

また、先ほどの 小学校を 8 月に再測定したところ、空間線量が逆に高くなっている場所がありました（添付の別紙 3 の線量マップを参考下さい）。5 月に $0.3 \mu\text{Sv/h}$ (1m) だった場所が、8 月には $0.5 \mu\text{Sv/h}$ (1m) でした（前述の市の測定では $0.09 \mu\text{Sv/h}$ (1m)）。そこは、校庭の端の方、鉄棒のある場所で、学校の敷地のすぐ隣に雑草が生い茂っています。私は 6 月からガイガーカウンターで身の回りを常に計測していますが、8 月の段階では、草の茂っている場所が比較的線量が高いようであり、むしろ 2 か月前よりも線量は上がっています。（複数の保護者がそう報告しています）。また、風が吹くと線量が一時的に上昇します。また、近くで芝刈りを行うと線量が上がります。これらは放射性物質が舞っているからでは？と思うと、呼吸による内部被ばくを考えて不安になります。また、線量は、天候、気温、湿度、風向き、地形など、さまざまな条件により、日々刻々と変化しているようです。

被ばく量は、こうした条件と子ども達の行動と複雑に関わり合っていると思われるため、行政の測定した値から即座に「問題ない」と判断されても、不安を覚えるのです。また、（ウェザリング効果や半減期により）減衰していくから大丈夫だろう、という予測も、必ずしも当てはまるとは言えないのでは、と思います。子どもの健康、将来に関わる大切なことなのですから、もっと慎重に判断してほしい、そう思います。

3、土壤調査からわかったこと

私達の会は、6 月 19 日に、神戸大学の山内知也教授の協力を得て、三郷市内の土壤の汚染調査を行いました。その結果、ある小学校の正門のすぐそばの用水路脇の土の線量が $1.86 \mu\text{Sv/h}$ であることを発見し、その土を分析したところ、セシウム総計 $13,812\text{Bq/kg}$ (Cs-134 が $6,692\text{Bq/kg}$ 、Cs-137 が $7,120\text{Bq/kg}$) が検出されました。これは、「放射線障害防止法」で定められている「放射性同位元素」に相当する濃度の汚染とされています（ $10,000\text{Bq/kg}$ 以上）。「放射性同位元素」とは、国民の安全を守るために、国の許可なしに持ち出したり放置してはいけない、と法律で定められているものだそうです。つまり、これまで法律で「人が触れたら危険だから取り扱いには許可が必要」とされているものと同レベルの汚染の土が、子ども達が毎朝通る小学校の正門のすぐそばにあったということです。私達は、この事実を非常に重大なこととして、市に対し報告しました。市はその存在を知りませんでした

た。市は後日、その土を線量測定した上で、撤去しました。

さらに、8月上旬に、別の市民団体「放射能防御プロジェクト」が、首都圏 150 か所の土壤調査の結果を発表しました²。その中の最高値が、三郷市早稲田の植え込みの土から検出された、セシウム総計 14,140Bq/kg (Cs-134 が 6642Bq/kg、Cs-137 が 7498Bq/kg) の汚染でした。これは、チェルノブイリの避難区域に当てはめるとすれば、「一時的移住区域」に相当するそうです (Bq/m²への換算は 65 を乗じている)。つまり、チェルノブイリ事故において、行政の責任で、住民が強制的に一時避難を命じられた地域と同レベルの汚染といえます。しかも、「放射能防御プロジェクト」によると、土の採取にあたっては、植え込みを十数メートルほどの等間隔で 3 か所ほど採取し、ブレンドして分析に出していること。そのため、局所的な汚染ではなく、このレベルの汚染が面的に広がっている可能性がある、とのことでした。道を挟んですぐ隣には小学校があるような場所です。

さらに、その人の話では、土採取場所の空間線量は 0.4 μSv/h ほどだったそうです。

この場所は、市でも追認のための空間線量計測を行っており、やはり 0.45 μSv/h ほどだったそうです。

これらのことから、空間線量と土壤汚染とは、必ずしも一定の関係で求められるものではないようです。

そして、たとえ空間線量がこのレベルでも、その土を子ども達が触れることや、その土が乾いて土ぼこりとして舞うことを考えると、不安は拭えません。「放射線障害防止法」に定められているレベルの放射性物質を含む土を触ったり吸い込んだりして、子ども達は本当に大丈夫なのでしょうか？

そして、このような土壤汚染が福島原発から 230km 離れた三郷市でも存在することを考慮して、改めて郡山市の現状を再認識していただきたいです。郡山市は三郷市よりさらに汚染レベルは高いはずです。

4、学校の対応と保護者の不安

1 学期の間、三郷市の学校では、放射能対策は何も行われませんでした。

遠足は例年通りの場所に行きました。子ども達は草むらでお弁当を食べ、アスレチックで池に落ちました。春の運動会は、砂ぼこりが舞う中、裸足で組体操を行いました。近くの田んぼ脇の排水溝にいるザリガニを捕まえにいきました。田植え体験を行いました。プール清掃も草むしりも児童が行いました。放射性物質を含み搬出不可となった汚泥が山積みされた浄水場や、焼却灰から放射性物質が検出されているごみ処理場に、子ども達はマスクもせず社会科見学に行きました。私は、三郷市の汚染状況が気になりながら、毎日、子どもを学校に送り出すのが不安で心苦しくてたまりませんでした。「学校の線量を測ってほしい」「砂場の砂を取り除いたり、校庭周辺の落ち葉や雑草を探ったりしてほしい。できることは協力します。」と校長先生にお願いしました。ですが、「市や国の専門家が問題ないと言っているからやらない」と言われました。他の学校の保護者に聞いても、だいた

い同じような答えだったそうです。

一方で、私達の会の保護者も、ガイガーカウンターを手に入れる人が増えてきました。県や市の計測よりも何倍も高い値がどんどん報告されました。そして、山内教授による調査、放射能防御プロジェクトによる調査、と、どんどん三郷市の汚染が思った以上に高いレベルであることがわかつてきました。それでも学校は、例年と同じカリキュラムを続けました。多くの保護者が、資料を集め、自身の計測結果をまとめて、それぞれの学校に持っていきましたが、学校側は「対応しない」の一点張りでした。

福島原発事故は起きました。そして、私達の住む町を放射性物質で汚染してしまったのです。とても残念なことですが、それは事実であり、私達はそれを認めないといけません。そしてそこから、子ども達をどうやって守っていくか、現実を見つめて考えないといけません。ですが、学校は保護者の真剣な思いを受け止めてはくれませんでした。

学校は、子ども達を健やかに、元気に、無事に成長させるための場所ではないのですか？私はそう信じていました。

でも今の学校は、子ども達を親の手から引き離し、被曝を強いいる場所となってしまっています。

私はそのような場所にこれ以上子どもを通わせることができず、2学期からより線量の低い東京都の学校に娘を転校させました。

1学期のことを思うと、本当に悔しくてたまりません。

5、転校について

小学4年生の娘は、現在私の妹家族の家から、小学校に通っています。

私はまだ自宅の管理もあり、三郷市でやらなければならないことがあります、妹家族の負担も考えて、主に三郷の自宅で過ごしています。

この決断を話すと、ほとんどの人が驚きます。「ある意味一家離散だね。」と言われます。

しかし、このような転校が実現可能だったのは、多くの条件が偶然クリアされたからです。

- ・私の妹の家が自宅からほどよく離れた距離で、線量の低い場所だった
- ・私の妹も放射能のことを心配している
- ・私の妹に、娘と歳の近い仲の良い女の子がいる
- ・妹の夫が理解して受け入れてくれた
- ・私の夫が理解して援助してくれている
- ・娘が転校を理解してくれた

本当にラッキーだと思います。どれかひとつでも欠けていたら、娘は2学期からも三郷市の小学校に通っていたと思います。そう思うと、今は本当にホッとしています。

それでも、いざ決断するのは勇気が入りました。

新学期の前日は、娘は不安そうな顔をしていました。

当日、新しい学校に娘と一緒に行き、しばらく様子を見て帰りました。

不慣れで戸惑っている娘を教室に残して学校を去る時は、思わず涙がこぼれました。

² <http://www.radiationdefense.jp/investigation/metropolitan>

本当にこれが娘のためなのか…。本来なら、お友達と再会を喜んでいる2学期の始まりなのです。

私は新学期以降、1歳半の息子を連れて三郷と東京を往復する日々を送っています。娘の学用品を届けたり、宿題を見たり、学校の話を聞いたりするために往復しています。想像以上に大変な日々です。それでも、三郷で学校に通わせながら、マラソンや校外学習をしたと聞くたびに泣きたくなる日々を送ることを思うと、それもまた耐えがたい苦痛です。どちらがよかったです？

私の周りでは、子どもを避難させたいけれどできない、という声を聞きます。仕事や持家の都合や、家族の理解が得られない、とか、行き先が決まらない、とか、貯金がない、とか、理由はさまざまです。一方、引っ越しを決めた人もいます。毎週末、何時間もかけて場所を探しに通ってようやく決めた、という人もいます。三郷でも子ども達の体調不良が相次いでいますが、夏休み中に三郷を離れていたら症状が治まったが、帰ってきたらぶり返してしまったため引っ越しを決めた、という人もいます。もちろん病院に行っても放射線障害とは認められないため、自力での移住しかありません。私の子ども達は今のところ目立った症状はありませんが、いつ体調を崩すかと不安になります。

三郷の子ども達は、当然、今も普通に学校に通っています。それを見ると、私は強迫観念にかられた頭のおかしい母親なのか、と自分で思って悲しくなることがあります。放射能は目に見えないし、においもしません。いっそみんな、具合が悪くなればいいのに、と本気で思います。そうすれば、放射能がそこにあることを、誰もが認め、慌てて対処するでしょう。慌てて子ども達をそこから遠ざけるようにするでしょう。

でも放射能の影響は、そういう形では出ません。そして後からもっとひどい形で出てくるかもしれない。でもその時、行政はそれが原発事故の放射能によるものだと認めてくれるでしょうか？私は信じられないから、子どもを無理やり転校させました。こんな選択に、自由は存在しません。これしか道がなかったから、私と娘はこのような離れ離れの暮らしをしています。娘にとっても、いいはずがありません。多くの人が、この生活の困難さを予言します。まだ先は見えません。

放射能というものの理不尽さを心から恨みます。

さいごに

最後にお伝えしたいことがあります。

私は両親をガンで亡くしました。ガンで死ぬまでに、どれだけ苦しい思いをするかを、間近で見てきました。母は、小学生の私と妹を家に残して入院するたびに泣きました。私の花嫁姿を見るまでは、というのが口癖でした。最後は「死なせてくれ」と言って死んでいきました。それほど苦しい闘病でした。

父はガンのため、生きがいだった仕事を続けられなくなりました。抗がん剤の治療は想像を絶する苦しさだったようです。最後は自ら食事を絶ち、死んでいきました。

100mSv でガンリスクが 0.5% 増えるだけ、と専門家の人がよく言いますが、大変違和感を覚えます。その数値自体が今回の原発事故の被害に適用できるものなのか、私自身は疑

わしいと思いますが、それよりも、たとえば 0.5% ガンリスクが上がる、ということがどういうことなのか、どれほどの人が、どれほどの時間、苦しい時間を過ごさねばならないか、そのことに思いをはせてほしいです。私は子どもが二人いますが、本当に幸せになつてほしいと、ただそれだけを願って育ててきました。つらい人生を送らせるために産んだのではありません。子どもはみんな、そうやって愛され、希望を持って生きていっていいはずです。その子ども達が、病気になって苦しい人生を送ることになるかもしれないのに、現状に放置されていることを考えると、それだけでもういたたまれない気持ちです。

この事故の責任が誰にあるのか、誰もがわかっています。でもその前に、私達大人は力を合わせて子どもを守らなければなりません。目の前に危険にさらされている子どもがいたら、大人はみな助けようとするはずです。私達が行政に求めているのは、そういう、一人の大人としての良心です。子ども達にとって最善の環境を、大人たちが力を合わせて叶えること、それが何より大切なことではないでしょうか。

子ども達が救われる姿が見たいのです。それが福島から離れた場所で闘う私達にとっても希望になります。どうぞよろしくおねがいします。

2011年9月7日